

こんな本を読んできました



タイトル その声は、長い旅をした

著者 中澤晶子

出版社 国土社 2019年

広島市在住の中澤晶子さんが宮島に「豊臣秀吉御前演奏・天正遣欧使節がヨーロッパで聴いた音楽」という演奏会を聞きに行ったのがきっかけで生まれた物語です。

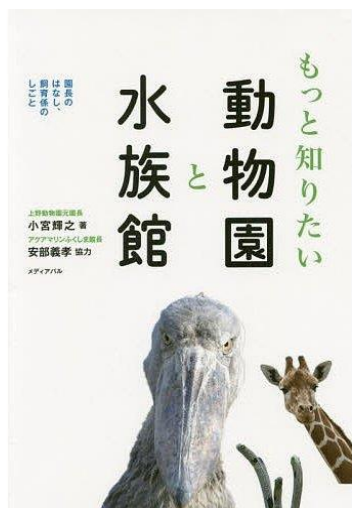
主人公の開は少年合唱団に所属しています。ある日、転校生としてすばらしい美声を持つ翔平が合唱団に加わります。開は翔平をライバル視しますが、二人はある時偶、森の礼拝堂で不思議な声を聞きます。そこから二人はその不思議な声の正体を探り始めます。

この物語は、現代の少年たちと十六世紀の天正遣欧使節としてローマに渡った少年たちの時代が交互に描かれています。それぞれの時代の少年たちの、揺らぐ気持ちや思春期の不安を、心の中に折り込んでゆく成長の過程が、層になって自分の中に降り積もっていく不思議な世界観にいつの間にか入り込んでいきます。

ぜひ手に取って、その「声」を感じてみてください。

呉市にかかわりの深い「海」に関する所蔵資料を紹介します。

海の文庫



タイトル もっと知りたい
動物園と水族館

著者 小宮輝之

出版 メディアパル 2019年

「水族館や動物園は楽しいところ」誰でも一度や二度、遠足や家族旅行などで訪れたことがあるでしょう。この本の著者小宮輝之さんは上野動物園の元園長です。私たちが思い浮かぶ動物たちについての様々な疑問に答えてくれます。(サメと同じ水槽の小さな魚は、食べられてしまわないの?・・・など。)

もう一つの魅力は、実際に現場で働く飼育係や獣医師へのインタビューで、見ただけではわからない秘密や生の声が載せられていることです。将来、飼育係になりたい人や獣医師を目指しているお子さん必見! また、単なる動物好きという方が読んで、次回のお出かけ時に家族に豆知識を披露できるかもしれませんよ。

私が一番オススメしたいポイントは、各章の終わりに「園長・館長・飼育係」おすすめの本が、表紙の写真付きで載せられているところで、絵本や小説、専門的な本まで多岐にわたっています。動物好きの私も知らなかった本がいっぱい。どれから読もうかなと楽しみが広がります。